1.　評価結果概要表

作成日　2008年12月3日

【評価実施概要】

事業所番号	0372100743
法人名	社団医療法人　池田記念会
事業所名	グループホームほほえみの家
所在地	〒020-0173　岩手県岩手郡滝沢村滝沢字高屋敷平11-1 （電　話）019-684-2606

評価機関名	特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021　岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年9月17日	評価確定日	平成20年12月3日

【情報提供票より】（平成20年8月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成13　年2月15日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	14　人	常勤 14人，非常勤　人，常勤換算 14人

（2）建物概要

建物構造	木造平屋　造り　2棟
	1 階建て0　1 階　～　階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	47,250　円		その他の経費（月額）	実費負担　円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250　円	昼食	250　円
	夕食	250　円	おやつ	100　円
	または1日当たり　850　円			

（4）利用者の概要（8月1日現在）

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2　名	要介護2	7　名		
要介護3	4　名	要介護4	2　名		
要介護5	3　名	要支援2	0　名		
年齢　平均	87.4 歳	最低	79 歳	最高	98 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	かなもり神経科・内科クリニック、八幡歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、社団医療法人池田記念会の運営する事業所の一つでホームのほかに介護老人保健施設や訪問介護ステーション等が同一敷地内にある。JR盛岡駅からバスで25分ほどのところにあり、りんご畑が近くにあり、閑静な場所に位置している。広々とした自然環境の中、利用者は天気のよい日は敷地内を散歩したり、また飼っている猫が自由に居室に出入りできるなど、ゆったりとした時を過ごしている。ホームはAユニット、Bユニットの2棟に別れているが職員の相互協力の下、利用者本位を基本に利用者と職員が支えあい馴染みの関係を保ちながら安心して楽しく生活している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回の自己評価で気づいた家族アンケートを実施しホームの運営に活かしている。職員それぞれが自己評価を行い、全体会議で話し合い実施する意義について理解し、具体的な改善点について確認しあっている。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 職員それぞれが自己評価を行い、全体会議で話し合い実施する意義について理解している。ホームの理念と実践目標は文章化されているが、もう少し分かりやすい文章にしたいとして現在検討している。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 運営推進会議を定期的に開催し、議事録は玄関の壁に掲示しており自由に閲覧できるようになっている。会議は行事や暮らし、自己・外部評価の取り組み、地震の発生と被害状況などその時々の主要課題を報告し、そこで討議された参考意見を持ち寄り職員会議で検討しサービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** ホームが実施するイチゴ狩りや流しそうめん、外食などの行事を通して家族との話し合いの機会をつくり意見や苦情、不安などを聞いたり、家族アンケートを実施したりして運営に反映させている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 法人として自治会に加入し、ホームの広報誌を配布している。また、ホームでの誕生会や七夕などの行事を利用して地域のボランティアの参加を依頼し余興に踊りや尺八などを協力してもらい交流に努めているが、ホームの周辺は同法人の経営する他の施設やリサイクル工場、リンゴ園となっており民家や住宅が無いため近所付き合いは十分ではなく今後の課題である。

2. 評価結果（詳細）

確定日　平成20年12月3日

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で話し合い「ほほえみの家は、入居者の皆様の夢・希望が叶えられるようそっとお手伝いいたします」とグループホーム独自の理念を作り、職員全員が地域の中でその人らしく暮らすことの大切さについての認識を持っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有と実践に向けて、サービス提供時の具体的な目標を食事・地域等4つに分け、申し送りで職員各々が確認するよう意識啓発を行い、更に日常で確認できるよう玄関や台所に理念を掲示している。しかしながら、簡潔な一語とすることで、より職員・家族等の理解が得られるのではないかとの考えのもと現在検討中である。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人として自治会に加入し、ホームの広報誌を配布し、村の広報紙が届く体制となっている。地理的な関係で地元の人々と交流する機会が限られてしまうが、ホームでの誕生会や七夕などの行事を通してボランティアの参加をお願いし、踊りや尺八などの余興に協力してもらうなど、地元の人々との交流が徐々に多くなってきている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員を半分に分け、それぞれが自己評価を行った。自己評価することの意義を十分に理解し、また自己評価する中で問題点を発見することができた。問題点については全体会議で話し合ったり、運営推進会議で検討したりと、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、会議の議事録は玄関の壁に掲示している。会議には、利用者の活動や暮らしの状況、評価の取り組み、地震発生時の状況などその時々の主要課題を報告し、そこでの意見を職員会議で検討しサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	村の担当者がホームを訪問する機会は少ないが、ホームでは運営推進会議の議事録や広報誌を村に持参している。また利用者の各種の申請手続きなどの機会に利用者の暮らしやホームの役割などを報告し、理解してもらうよう努めている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回、ホームの行事や職員の異動等を内容とした写真入の広報誌を送付し、利用者の暮らしぶりなどを報告している。健康状態などは面会時にケース記録を提示しながら説明し、金銭管理についても収支のコピーを渡し確認してもらっている。また、緊急時などはその都度連絡を取り合っている。	○	家族への報告は定期的に広報誌等を送付しているが、面会の少ない家族に対しては利用者のケース記録の抜粋や暮らしぶりを手紙で伝える対応を検討しており、今後の取り組みを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートの実施のほか、イチゴ狩りや流しそうめん、外食などの行事を通して家族が参加する機会を設け、その際に話し合いや意見交換を行い、その意見を運営に反映させている。昨年度のアンケートでは、行事が多すぎるのではとの意見を反映させ、利用者が負担に感じない程度の回数に変更した。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	信頼関係を築くのは馴染みの職員による支援が大切だと考えており、管理者と十分協議し固定化に努めているが、止むを得ず異動が行われる場合は、異動後もホームに立ち寄るなど利用者とのつながりを大切にしている。また、異動した職員を広報誌などで家族に知らせるなどダメージを防ぐ配慮をしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は医療を中心に職員会議で実施し、外部研修は、協会や地区の定例会などへ職員の経験や能力などレベルに応じて参加させている。また、サービス現場での研修は、チームを組んだ時の先輩に介護や介助などの技術を学ぶ方法で職員の研修機会の確保に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月開催される地域ケア会議や協会の定例会に参加するとともに、地域ブロックで実施している交換研修にも参加し、ネットワークづくりやサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に当たっては家族や本人に雰囲気や環境について知ってもらうため、ホームを見学してもらっている。利用申し込み後は予定者に来てもらい、お茶飲みや食事作りなどを体験して、ホームに馴染めるよう家族と相談しながら進めている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	暮らしの中で、食事づくりや掃除、洗濯などを一緒に行える場面を作っている。また、タケノコご飯や干し柿づくりなどの場では、職員が「次にどうやるっけ」などと利用者に話しかけ、教えてもらったり、一緒に学んだりと喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物やドライブ、食事の時など、暮らしのいろいろな場面で本人の希望や意向の把握に努めている。また、言葉で表現できない利用者の場合には日常の関わりの中での表情、しぐさを察知し、推測して利用者本位となるように検討している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者の暮らしの内容や家族の意向を踏まえながら、担当者が計画をつくり、責任者が点検確認し全職員に回覧して介護計画を作成し、家族の同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の変化に対応できるよう、毎月、職員会議でアセスメントを行っている。介護計画は基本的には3か月に1回見直しをしているが利用者の状況等に変化があった場合には、その都度新たに見直しをしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望や要望に応じて買い物や理美容への外出支援、利用者の知人のお墓参りなど、家族と利用者のその時々の要望に応じ柔軟に対応している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、本人及び家族の意向を尊重している。また、主治医以外の医療機関を利用するときは、原則家族が同行して受診することとしているが、難しい場合は職員が付き添い適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意思確認書を作成しており、ホームの利用契約時に説明のうえ同意を得ている。利用者の健康状態に変化が生じたときはその都度、家族と話し合いを行い意思確認をして全員で方針を共有している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護や誘導の支援、ケース記録などで利用者の誇りやプライバシーを損ねないように職員会議で意識啓発を図っている。また、利用者の居室のドアを解放したときのプライバシー保護のため暖簾を設置している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの大まかなスケジュールを目安に生活しているが、その日の利用者の体調や気分などを把握し、どう過ごしたいか何をしたいかを把握し、希望に沿った支援に努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の好みや力を活かしながら、食事の材料を買いに行ったり、調理や盛り付け、配膳や片付けなどを一緒にしている。また、旬のメニューを取り入れたり、利用者のお好みメニューで食べたいものを食べる機会を取り入れたりして楽しい食事となるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前11時から午後8時頃まで入浴できるように準備しており、自己決定できる人は自由に入浴している。自己決定できない人は、体調や気分に合わせて清拭などをしたり、次の日に声を掛けるなど入浴の方法を変えたりして楽しめるように努めている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常会話や家族の情報から昔の体験や仕事、趣味などを把握して、習字やぬりえ「カレンダーの色塗り」花の水遣り、歌など興味を持てる場面をつくり能力を発揮できるように工夫しながら喜びのある日々を過ごせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩、ドライブを兼ねた食材の買い物など、利用者一人ひとりのその日の希望に沿って戸外に出かけられるよう支援している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の希望を尊重したケアの実現について管理者と職員で話し合い、鍵をかけることの弊害について共通認識しており、7時15分から21時までは玄関を開放しているが、職員の手薄な時間帯にはセンサーを利用して見守りの体制をつくり、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの消防計画を作成し、地域の方に協力を得て避難訓練を実施している。また、運営推進会議の場を利用して行政、地域、家族と災害対策について協力を得られるよう働きかけている。	○	避難訓練時には地域の方の参加が若干あったが、更なる地域の方の協力は必要であることから運営推進会議等で検討するなど、地域の協力が得られる体制づくりを期待する。また災害時に備えての備蓄について検討されており、災害時対策のひとつとして必要なことであり今後に期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事･水分量はチェック表に毎日記録し、その摂取状況を把握して利用者に応じた支援をしている。また、定期的に栄養士から専門的なアドバイスを受け、バランスよく栄養等が確保できるよう献立つくりの参考にしている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールから玄関までと居室へ行く廊下には間仕切りがないため見通しが良く、不快な音はない。ホールは食堂になっておりテーブルと椅子が置かれているが、そのほかにソファーや畳も配置されゆっくりくつろげる空間となっている。また壁には季節感を感じられるように装飾し、居心地よく暮らせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の環境は利用者や家族と相談して、使い慣れた箪笥、位牌などの調度品や趣味で集めたこけし、人形、写真、絵画などを持ち込んで配置し、それぞれに居心地のよい居室となるよう工夫している。		